

第1回5G×ICTインフラ利活用検討会の概要（主な意見）

1 開催日時および出席者

①日時 令和元年5月10日（金）15：00～16：30

②出席者 東京大学森川博之教授（座長）ほか17名

2 意見交換の概要

- ・5G基地局の整備に当たっては、地域間の偏りがないように進めてほしい。
- ・5Gはすべての産業にかかわってくる。何らかの優先順位をつけ、モデル的な取り組みから始めて、そこから他の分野に活用するとうまくいくのではないか。
- ・これからの災害対応は「個」を救うことが求められる。パーソナライズされたハザードマップやIoT、プローブデータ等とつながった防災情報システム等などにより、大きな災害でない場合でも地方を守る体制づくりが5Gの活用によりできるのではないか。
- ・労働生産性向上の取組みについて、既存の延長線上にあるものや既存のビジネスを組み合わせた新たなサービスに加え、5Gの特性を活かした新たなビジネスモデルの創出に向け、県内企業が刺激を受けることができればよいのではないか。B2B、B2B2Cの部分にいかに関活用できるかが大きなテーマ。
- ・IT人材育成の観点からの検討も必要。
- ・セキュリティ確保も大きなテーマであり情報提供をお願いしたい。
- ・個別事業者においては、人手不足が一番大きな課題。また、商店街の活性化や中山間地域の資源を活かした観光との連携が課題。
- ・実際の農業現場のICT導入は報道に取り上げられているほどは進んでいない。農家も関心はあるが、開発資金もかかるし情報収集も難しいという課題がある。
- ・5Gの普及により、VRやARなどと組み合わせた新しいゲームの出現や、プレイヤーの技術向上につながると考えている。eスポーツのエンターテインメント性が増すとされており、非常に期待している。
- ・ICT機器の使い方に、子育て世代も苦勞しており、高齢者はもっと苦勞するのではないか。子供たちだけではなく、幅広い世代へのICT教育も大事。
- ・ただ夢を語るのではなく、費用対効果も念頭に置いて議論すべき。遠隔医療や森林管理等で5Gの利活用ができればとも思うが、コスト面も含めてもう少し具体的な議論できるように情報提供をお願いしたい。
- ・費用対効果はまだ見えていない。通信事業者と現場が一緒になって費用対効果を探っていく、その先遣隊に富山県がなっていたらとよい。